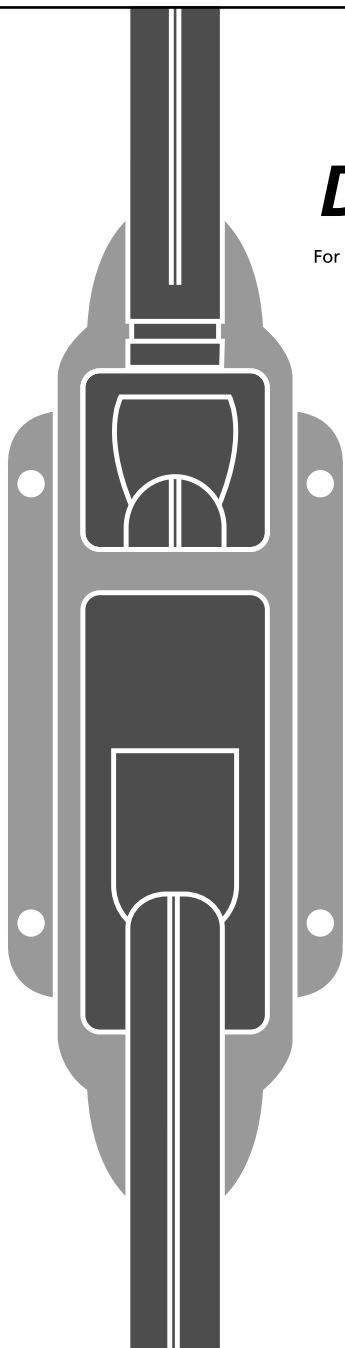


Denver Shunt

For patients with refractory ascites and pleural effusions

デーパー・シャント



患者様の手引

目次

はじめに	2
デンバー・シャントについて	2
1. 腹腔・静脈シャントの使用目的	3
2. デンバー・シャントの構造	3
3. デンバー・シャントの植え込み場所	4
4. デンバー・シャントの使用法（管理）	5
5. デンバー・シャントの注意事項 （デンバー・シャント機能チェック）	6

はじめに

この小冊子は、これからデンバー・シャントの植え込み手術を受けられる方、あるいはすでに植え込み手術を受けられた方と、そのご家族に読んでいただくために作られました。

皆様方にはデンバー・シャントという耳慣れない言葉をお聞きになって、多少なりとも不安に思われていることでしょう。また、手術後の生活の留意点などで疑問な点などたくさんあるものと思われます。

この小冊子は、デンバー・シャントに関して解かりやすく説明してあります。お読みになって、疑問な点などありましたら担当医師にご相談下さい。

デンバー・シャントについて

デンバー・シャントは、腹腔内の余分な液体がたまるのをコントロールするために開発された医療機器です。

これによって、繰り返される針による液体の吸引やドレナージ管留置に替わる治療が行なわれます。

デンバー・シャントは数週間から数年間も植え込んでおくことができるため、

- 何のために使用するのか
- どのようなものか
- どのように取り扱うのか

以上の3点を詳しく理解するのはとても大切なことです。

何のために使用するのか

1. 腹腔・静脈シャントの使用目的

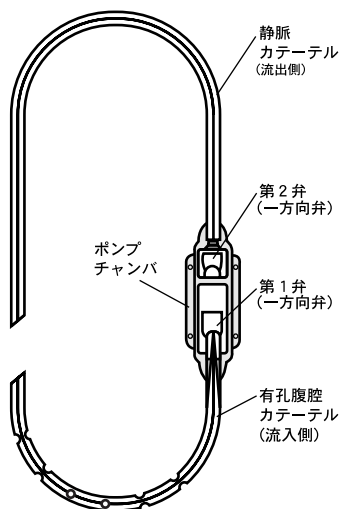
内科的にコントロール困難な難治性腹水、即ち過剰に貯留した腹水は、呼吸困難、食欲不振などで容態悪化し、体重・腹圍増大で、日常的活動が制限されます。

腹腔・静脈シャントは腹腔内の腹水を管理するために使用されます。過剰な腹水を腹腔から静脈に流出させるために留置され、栄養分を捨てることなく腹水は体内で吸収されます。

どのようなものか

2. デンバー・シャントの構造

デンバー・シャントはシリコーンと呼ばれる軟らかなゴム素材のポンプです。



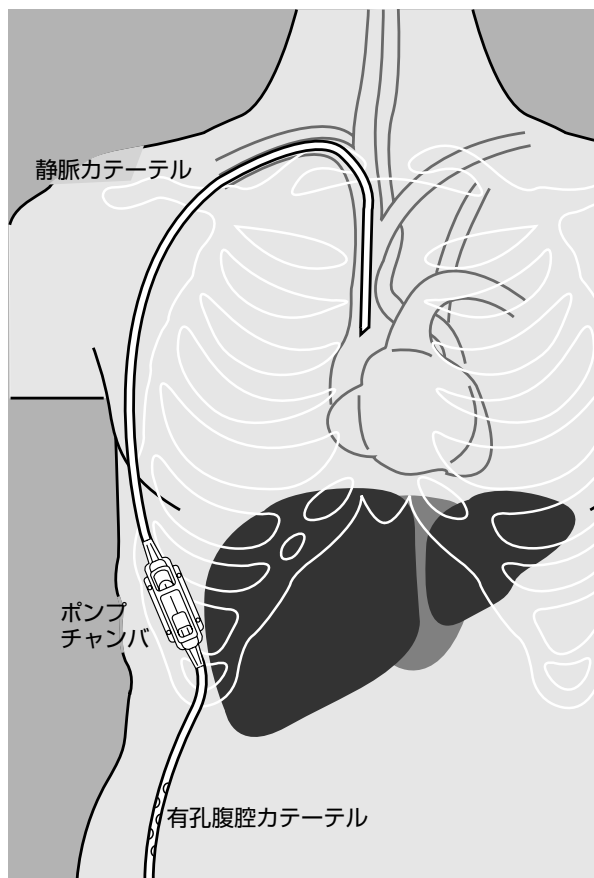
デンバー・シャントの基本構成は以下の3部分からなります。

- 有孔腹腔カテーテル：余分な腹腔内の腹水を吸引する管
- ポンプチャンバ：シャントの主要部で2つのチャンバ（空間）に分かれ、それぞれの内部に弁がついています。
- 静脈カテーテル：余分な腹水を静脈経路で循環系へ流出する管

デンバー・シャントは、腹腔内と（鎖骨下静脈経路で）上大静脈を短絡させ、吸気時の腹腔内圧の差を利用して、腹水を循環系に灌流させるものです。

3. デンバー・シャントの植え込み場所

デンバー・シャントの有孔腹腔カテーテルは腹腔内に挿入されます。
ポンプチャンバと静脈カテーテルは皮下に植え込み、ポンプチャンバは肋骨弓上に留置し、静脈カテーテルは胸部皮下から鎖骨下静脈を經由して上大静脈に挿入されます。

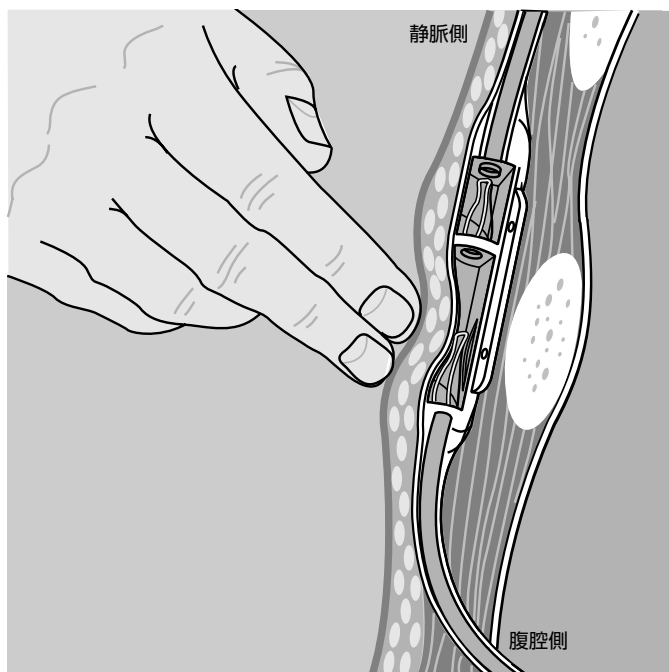


どのように取り扱うのか

4. デンバー・シャントの使用方法（管理）

腹腔内にたまった腹水は、圧較差により自動的にフロー（流れます）します。ポンピング（ポンプチャンバを押すこと）は、毎日仰臥位（仰向け）で、起床、就寝時の1日2回にわたり、1回あたり10回程度押すことを励行してください。ポンプを押すことは、静脈カテーテル先端の血栓の形成を抑制し、弁の連続開通性を維持（即ち、閉塞予防）するためです。

（注）腹水消失時の過剰なポンピングは腹腔内の脂肪組織を吸引し、閉塞の原因となります。腹水減少、消失時には1回あたりのポンピング回数を減らすことを考慮します。



デンバー・シャントのポンピング管理

5. デンバー・シャントの注意事項

デンバー・シャントは長期にわたり、高い信頼性で機能するように設計されています。しかし、いずれの部分（3部分）も何らかの理由により交換を必要とする事があります。デンバー・シャントに関して主に起こりうる問題は、シャントの詰まりです。

この発生率は低いのですが、腹水の状態から起こりうる可能性もあることを理解しておいてください。

以下が、シャント機能のチェック方法です。

デンバー・シャント機能チェック

仰向けになり、ポンプチャンバを指で押してください。

デンバー・シャントが適切に働いているかどうか、この簡単なチェックで確認することが出来ます。

※正常な場合

押す力のごく僅かで、押されたポンプチャンバは直ちに、もとの状態に戻ります。これがデンバー・シャントが適切に働いている状態です。

※詰まっている場合

症状としては、腹水貯留が再発してきます。これはデンバー・シャント機能が正常に働かないことを示しています。

デンバー・シャントの状態としては、

- (1) 押すごとに抵抗が強くなった場合、ポンプチャンバまたは、静脈カテーテルが詰まっていることを示します。
- (2) 押したままの状態でもとに戻らない（ポンプチャンバが再吸引出来ない）場合は、有孔腹腔カテーテルに詰まりがあることを示しています。このような場合は、直ちに医師に相談して下さい。

警告

患者様には、転んだり、衝突したりしないように注意して下さい。

このようなことが起こった場合、シャントの位置のずれや傷が生じていないかを確認する必要があります。

MEMO

製造販売業者



Mihama Medical, Inc.

株式会社 ミハマメディカル

東京営業所 〒112-0013 東京都文京区音羽2-11-19 オトワKSビル4階
TEL: 03-5981-0561 FAX: 03-5981-0563

大阪営業所 〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-20-19
新大阪ヒカリビル802号

TEL: 06-6815-7580 FAX: 06-6815-7584

<http://www.mihama-med.com> E-mail: mimi@mihama-med.com